

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

評価基準 S S : 目標の達成状況として特筆すべき優れた実績を上げている。
 S : 目標の達成状況として優れた実績を上げている。
 A : 目標の達成状況として着実に実績を上げている。
 B : 目標の達成状況として概ね着実に実績を上げている。
 C : 目標の達成状況として十分な実績が上げられていない。

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
基準1. 使命・目的等					別添
1-1 使命・目的及び教育目的の明確性					委員会議事録等
① 意味・内容の具体性と明確化	部局長会議	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アセスメントポリシーの明確化	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは策定し、ウェブサイトで公表した。	A	
② 簡素な文章化	部局長会議	ウェブサイト、大学案内、学院生活便覧等で発表	ウェブサイト、大学案内、学院生活便覧で公表している。	A	
1-2 使命・目的及び教育目的の適切性					
① 個性・特色の明示	部局長会議	KVA精神の現代への適用、COC（地域社会への貢献）「つくば市をキャンパス」にした活動の活性化	KVA精神は、現代社会への適応を重視し、本学においては、知識はビジネスマネジメントの知識、技術はICT活用のシステムや開発システムデザインの技術、徳性は「つくば市をキャンパス」にしたOCP活動で養成されるものであることを明確化した。	A	
② 法令への適合	部局長会議	コンプライアンスの徹底	法令は遵守されている。	A	
③ 変化への対応	部局長会議（将来計画検討小委員会）	社会ニーズの把握、文科学、教育界全般の情報収集、カリキュラム改善案の策定、学生ニーズの把握	平成23年12月から開始した将来計画検討小委員会は、大学のあるべき姿、また本学喫緊の問題解決を目指した活動を継続し、カリキュラムの精査、将来構想を提言し部局長会議を通じて関連委員会で検討して実行している。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
1-3 使命・目的及び教育目的の有効性					
① 役員、教職員の理解と支持	部局長会議	学科会議、教授会、FD・SD 研修により周知徹底	周知し、完全に理解し意識を共有するために会議、研修の改善を行った。決定事項がさらに迅速に実行されるように一層の努力をすることで一致している。	A	
② 学内外への周知	部局長会議	ウェブサイト、大学案内、 学院生活便覧、定期的な広 報活動等で発表	決定事項に関しては外部に広報している。	A	
③ 中長期的な計画及び大学の使命・目的及び教育目的の反映	部局長会議（将来計 画検討小委員会）	地域に貢献する人材を育成 する教育大学としての確立 と国際化する筑波研究学園 都市に教育研究分野で貢献 する	地域ニーズの把握をおこないカリキュラム改善、自治体および企業との協働を強めながら努力している。	A	
④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性	部局長会議	研究組織の改善と各コース の組織およびカリキュラム 改訂	実践科目（オフキャンパスプログラム）は10年を迎え、地域との連携で学生を教育してきた実績を、本学の研究活動とすること、またロボット、ICT、観光等の外部組織と連携している分野を研究活動として明確化する。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
基準2. 学修と教授			他大学や外部組織と連携している分野を研究活動として明確化する。		
2-1 学生の受入れ					
① 入学者の受入れの方針の明確化と周知	入学者選抜委員会	アドミッションポリシーの改訂	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは策定し、ウェブサイトで公表した。	A	
② 入学者の受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫	入学者選抜委員会	入試制度、試験方法の改善	A0入試や推薦入試を回避する傾向が県立高校にあることは熟知しているが、本学は多くに門戸を開き、学生を成長させることを標榜し、A0や推薦入試で入学が保証されている学生も一般入試を再受験することで特待生の権利を得ることを告知。成果としては、評価点の高い学生が応募し、A0や推薦入学の学生から20名以上が特待生試験を受け、全特待生の半数近くにのぼる成績をおさめた。	A	
③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	入学者選抜委員会	学生補充目標の達成	学生満足度の向上、資格取得、就職支援の充実および、入試広報戦略の改善により努力中である。	B	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
2-2 教育課程及び教授方法 ① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化	教務委員会	入試前教育、導入教育、初年次教育とカリキュラムの連動を明確化	1. 入学前教育について いままで入学者選抜委員会では実施していたが、教務委員会が責任をもって、導入教育、初年次教育の明確化のためにフレッシュマンセミナーを計画・開設し、学生支援Gの担当とした。 ①2回の入学前教育を行った。友達を作るきっかけづくりのワークショップと講義の受け方、基礎学力検査を行った。 ②昨年と同様、英語・日本語・数学の基礎的な知識の確認問題は事前に配布し、入学前教育までの宿題とした。提出率は約90%であった。 ③業者の入学前教育の添削指導の案内を入学予定者に送り、自由受講とした。4人が受講し、提出状況も90%以上であり、受講前と受講後の成績の伸びも報告された。 2. オリエンテーションについて フレッシュマンセミナーを導入し、充実させた。	S	
② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫	教務委員会	総合教養科目群、情報入門科目群、進路支援科目群の整理	平成26年度からのカリキュラム変更について下記の検討を行った。 (1) セメスター制の導入 (2) 実践科目を8単位必修とする (3) オリエンテーションとオムニバス授業を併せて、単位付与 (4) 卒業要件単位 専門発展科目群の取扱変更 (5) 新カリキュラムの検討 専任教員の担当科目の圧縮 非常勤講師担当予定の新規科目の設定 (6) 留学生向けカリキュラムの設置	S	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
2-3 学修及び授業の支援 ① 教員と職員の協働並びにTA等の活用による学修支援及び授業支援の充実	教務委員会	学習支援室の改善と適用	1. 学習支援室の改善と適用 漢字の補習指導で学習支援室を下記の要領で活用した。 指導日：週1回 対象：1年生のうち「日本語A」授業で学習支援室への参加を単位修得要件とされた学生 内容：漢検3級レベルの指導 出欠の管理 質問への対応 来年度のために、英語、数学でも補修指導をする体制を整えた。	A	
2-4 単位認定、卒業・終了認定等 ① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用	教務委員会	カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの明確化。卒業研究の改善	カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明確化し、ウェブサイトでも公開し、周知徹底を図った。 卒業研究に関しては、1学科になってから評価等に関して教員で間の合意が不十分であったことがを判明し、新年度に至急詳細を決め、全教員に徹底する。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
<p>2-5 キャリアガイダンス</p> <hr/> <p>① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備</p>	<p>就職委員会</p>	<p>キャリア支援科目と実践科目の連動。1年次からのキャリア支援を充実</p>	<p>25年度前期オリエンテーションでは以下の内容を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人になるということ、インターンシップについて（1, 2年生対象） ・社会的スキルを身につける実践講座、自分磨き—印象の良いマナーとウォーキング（2年生対象） ・就職活動のポイント、非言語セミナー、自己理解仕事理解講座（3年生対象） ・働くときのルール、就職するにあたり（3, 4年生対象） ・就職に関する個別相談、就活セミナー（4年生対象） <p>後期オリエンテーションでは、以下の内容を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職について（1, 2年生対象） ・就職活動について（3年生対象） ・ハローワークによる就職相談（4年生対象） <p>また、授業においては、必修科目である実践科目の授業内容にキャリア支援の内容を含め、全学生へのキャリア支援を1年次から取り組んだ。</p> <p>平成26年度前期オリエンテーションについては、就職活動期間の変更がある新3年生に対して時間を増やし、新2年生に対しても「働くことへの意識付け」をするための講座の実施を予定している。</p>	<p>A</p>	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
<p>2-6 教育目的の達成状況の批評とフィードバック</p> <p>① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫</p>	<p>部局長会議（自己点検・評価委員会）</p>	<p>学生による授業改善アンケートの改善と有効利用</p>	<p>授業改善アンケートは大学全体の状況を把握するために、教員個人だけではなく、自己点検・評価委員会が全教員の結果を検証して内部資料として教員に発表し外部発表につなげるようになった。</p>	<p>A</p>	
<p>② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック</p>	<p>部局長会議（教務委員会）</p>	<p>教員の顕彰制度導入の検討</p>	<p>教員の顕彰制度を具体化し、多くのゼミ生の指導や外部での活動を評価し、高嶋講師を顕彰した。全国大学実務協会による、教員の顕彰も実施する方向である。高藤教授を推薦する方向にしている。</p>	<p>A</p>	
<p>2-7 学生サービス</p> <p>① 学生生活の安定のための支援</p>	<p>学生委員会</p>		<p>1. 各種奨学金 5月に開催された学生委員会で要項・候補者等の説明を行い、6月に奨学生を決定した。同様に授業料減免対象者も決定した。</p> <p>2. 保護者会 例年度通り、年2回、講演と個別面談を計画したが、2月は大雪のため講演を中止し、3月に個別面談だけ実施した。</p> <p>3. 学生の食に関わる取組み 25年度実施の「学食改善プロジェクト」については継続していくこととなった。また、今年度、試験的に行われた「地産地消メニュー」、「朝食提供」の取組については、学生生活安定の為の支援の1つとして、26年度4月から実施することにした。</p>	<p>A</p>	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・結果の活用	学生委員会	学長との対話集会等の開催により学生の意見を把握し、大学側が対応	学長との対話集会、自宅外通学者との集会での学生から意見を吸い上げ、大学の回答は、学長室からウェブサイトおよび掲示板で開示し、解決策を講じ次第公表している。	A	
2-8 教員の配置・機能開発等					
① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置	部局長会議（運営委員会）	キャリア支援およびデザイン系の教員の充実	デザイン系の助教を採用し、メディアデザインコースの充実を図った。	A	
② 教員に採用・昇任等、教員の評価、研修、FDをはじめとする教員の資質・能力向上への取組み	部局長会議（FD・SD委員会）		FD・SDのための講演会・講習会を4回実施した。また、FD活動の一環として授業公開並びにアンケートを、SD活動として学外並びに法人主催の研修会を実施した。	A	
③ 教養教育実施のための体制の整備	教務委員会	総合教養科目、基礎教養科目の整備	教養科目を精査し、履修者が少ない科目を精査し、学生の効果的な学修を目指した。		
2-9 教育環境の整備					
① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理	部局長会議（事務局）		文部科学省などの補助金が4件採択され、ICT環境を最新のものに整備し、教育環境を充実させた。	S	
② 授業を行う学生数の適切な管理	教務委員会		多くの学生が履修すると思われる科目は2コマ開講し、適切な学生数維持と学習環境を整備した。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
基準3. 経営・管理と財務					
3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ					
① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性	学長室（部局長会議）	学長室の整備と職員業務の調整	大学の意思決定組織としてヴァーチャル機能である学長室および部局長会議は適正に機能しており、決定事項が全職員の共通理解をもつコミュニケーションフローと迅速な施行への改善も適正に進んでいる。	A	
② 大学の意思決定と業務施行における学長の適切なリーダーシップの発揮	学長室（部局長会議）	26年度にむけて組織改善	大学の意思決定事項を迅速に施行する目的で、学長の学部長兼務、同時に入試広報責任者兼務、学長補佐による学内調整、状況を熟知している事務局長就任で現状改善を試みる。	A	
3-4 コミュニケーションとガバナンス					
① 法人と大学の各管理運営機関並びに各部門の間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化	運営委員会		法人と大学の管理部門は、運営委員会で随時連絡・審議等をしている。学内においては、法人の意思は学長室並びに部局長会議を通して関係部門に伝達・対応指示がされている。学内の意思決定機関としては、教授会が適正に運用され、討議の場として学科会議も適正に運用されている。法人の運営委員会と学内の各関係部門とは、適正なトップダウンとボトムアップの関係を維持している。	A	
② 法人と大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンス	運営委員会		定例化された運営委員会において、法人と大学で管理運営が適正に運用されている。	A	
③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営	部局長会議	部局長会議の構成員を改善し、広範囲な意見聴取と迅速な運営をはかる	25年度に内部体制を変更する提案を行い、26年度からコース主任等が部局長会議に出席し、各コースから効果的な意見聴取ができる体制を整えた。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
<p>3-5 業務執行体制の機能性</p> <p>権限の適切な分散と責任の明確化に配慮 ①した組織編成及び職員配置による業務の効果的な執行体制の確保</p> <p>② 執行業務の管理体制の構築とその機能性</p> <p>③ 職員の資質・能力向上の機会の用意</p>	<p>企画総務グループ</p> <p>企画総務グループ</p> <p>FD・SD委員会（企画総務グループ）</p>	<p>センターの導入より、センター長がさらにリーダーシップを発揮できる環境を実現する</p> <p>職員のスキルアップの機会を与え、学内の講座や外部講座に参加する</p>	<p>25年度中に組織の洗い出しを行い、26年度から国際交流センター、ICT活用教育研究センター、学習支援センターの3センターを設置することとし、当該分野の権限を有するセンター長を配することとした。各センターには、担当事務グループが明示されており、業務組織が明確になっている。</p> <p>25年度には、職員が希望する大学の講座に出席して（語学、IT）研修できると発表したが、実際に運用されていない。外部セミナーには延べ18人参加したが、知識と情報共有の改善が必要である。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
基準4. 自己点検・評価					
4-1 自己点検・評価の適切性					
① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価	自己点検・評価委員会	さらなる自主的・自律的な自己点検・評価を行うために評価表を改善。目標設定と達成結果を表示	25年度から、本学独自の評価表を作成し、ウェブサイトでの公開をする。項目ごとに自己点検・評価ができる仕様であり、目標及び自己採点も明示され、学内構成員にとって、自己点検・評価を認識しやすくなった。	S	
② 自己点検・評価体制の適正性	自己点検・評価委員会		本学独自の評価表の導入により、年度ごとの自己点検・評価の体制が向上した。	A	
③ 自己点検・評価の周知等の適正性	自己点検・評価委員会	自己点検等のウェブサイトにおける公表	FD・SD委員会の一環で学生からの授業改善アンケートの外部公表に関しては検討事項が多く、遅延しているが、自己点検は公表した。	A	
4-2 自己点検・評価の誠実性					
① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価	自己点検・評価委員会		従来より毎年作成している自己点検・評価報告書には、各項目ごとに根拠となる委員会の回数・日付が付記されており、参照が可能である。また、各委員会で承認された全議事要録をエビデンスとして保管している。	A	
② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析	自己点検・評価委員会	学生の授業改善アンケートの公開および教員の改善案提示	学生満足度調査および教員の授業改善等にさらなる調査法の改善が望まれる。	B	
③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表	自己点検・評価委員会	自己点検・評価報告書及び自己点検評価表の適正な共有環境の実現と、自己点検評価表のウェブサイトでの公開による情報開示の実現	自己点検・評価報告書並びに自己点検評価表は学内構成員が自由に閲覧できる環境にあり、法人本部の自己点検・評価委員会及び理事会に提出している。また、自己点検評価表はウェブサイトで公開し、広く社会へ情報開示を実施している。	A	

平成25年度 大学教育に関する自己点検評価書

筑波学院大学

基準項目及び評価の視点	担当委員会	目標	達成結果および根拠	自己採点	資料
4-3 自己点検・評価の有効性					
① 自己点検・評価の結果の活用のためのPDCAサイクルの仕組みの確立と機能性	自己点検・評価委員会	各目標毎の検証と改善	PDCAサイクルは、結果に対する冷静、論理的な判断と原因の究明が必要であり、結果の確認と改善案の提言に関して、改善が必要である。	B	